

FOYER



What is
the stage technology ?

Special feature
劇場のお仕事：舞台技術

期待値の100%以上を
提供すること

知的・発達障がい児(者)にむけての
劇場体験プログラム

劇場って楽しい!! in 熊本



「アートラーニング in 新しい生活様式」

コロナ禍で活動制限が求められるなか、15 団体の講師たちによる、おうちにいながら文化技術が学べる「アートラーニング in 新しい生活様式」。YouTube でレッスン動画を配信していきます。(詳細は p.09)

参加団体・個人一覧

粘土クラフト
寒香 香代

フラダンス
吉永フラ・タヒチアングダンススクール(株)
吉永 仁美

ストリートダンス
ひびきキッズダンス
古閑 久里亜

江戸小唄
江戸小唄 若草
若草 紅駒

吟詠剣詩舞
秀峰堂吟詠詩舞会
会長 伊東 秀峰

箏
やまが和楽器伝承塾
小路永 こずえ・和奈

フラワーデザイン
欧風花インスティテュート熊本西
松本 かずみ

日本画
日本画工房 浮島館
大塚 浩平

詩歌吟詠
蘇山流蘇弘支部
鳥生 蘇弘

日本舞踊
藤豊会日本舞踊稽古場
藤間 豊太郎

民謡
民謡 竹峰流
福島 竹峰

フラワーアレンジメント
(一社)Nフラワーデザインインターナショナル 熊本支部
本田 浩隆

フラメンコ
エストゥディオ・アレグリアス
林田 紗綾

クラシックバレエ
レイ DANCE STUDIO
瀬崎 由利

書道
坂本貴峰書道教室
坂本 貴峰



熊本県立劇場
KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】
公益財団法人 熊本県立劇場
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】
株式会社 ジャム
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017
www.jam-cf.com

What is the stage technology ?



舞台袖から進行を見守る技術スタッフ。舞台の進行に合わせて吊り物や床機構の上げ下げなどを行う

求められるものを100%とすれば、それを最低ラインとして、さらにその上の提案をするために、やりとりを密にして要望をくみ取っていきます。2016年の熊本地震後は、有事の場合の対応についても詳細に打ち合わせを行っており、今年からは新型コロナウイルス対策としての劇場運営が加わっています。

ふたつ目の仕事は、舞台技術の提供です。県劇のホールを利用される団体へ、照明や音響や映像など、劇場のスタッフが技術を提供します。主催者に対し、催物の内容をヒアリングしながら具体的にとのよな舞台演出を行うのか、時には見せ方や演出の方法などをアドバイスします。県劇のホール利用に慣れている団体もあれば、初めて利用される方も。また、舞台のジャンルによっても対応は変わってきます。場合によっては主催者側で舞台監督を立てることもあり、劇場のスタッフの関わり方はケースバイケースで実にさまざまです。

special feature
劇場のお仕事：舞台技術

期待値の**100%以上**を提供すること



技術スタッフの役割は
安全と感動の両立。

開演を知らせるブザーが鳴る、そして照明が暗くなり、幕が上がる。ステージ上に灯されるスポットライト、ホール内に響き渡る音。この舞台上のすべての演出に携わっているのが、舞台技術スタッフです。今回の特集では、熊本県立劇場の舞台技術のお仕事についてご紹介します。

県劇のような公共ホールの舞台技術には、大きくふたつの役割があります。ひとつ目は、安全管理。これは、主催者が安全にホールを利用できるようにするための後方支援です。全国ツアーのライブ・演劇や、海外からのオーケストラなどの公演には、主催者側が専属の技術スタッフを連れてくるケースがほとんど。その技術スタッフによる演出がスムーズに、効果的に行われるよう、県劇の舞台技術スタッフは後方で安全管理を徹底して行います。主催者から



表には出ないけれど
舞台上に生きている技術。

舞台では、見ている風景が一変する場面転換や、音と光のシンクロした演出、出演者の息づかいまでも、鑑賞の感動につながります。その演出に大きく関わっているのが、舞台技術スタッフです。決して表には出ない存在ですが、その舞台上にあるすべてのことに関わっています。

舞台技術スタッフの主な業務は、舞台機構の操作や、舞台監督の指示を裏方スタッフに伝える「舞台機構」、ホール内の音楽、音の環境を総合的にデザインする「音響」、そして光によって舞台を演出する「照明」と、大きく3つあります。舞台機構は、進行に関わる業務を担当し、演台や平台、吊り物、プロジェクターな

ど必要な備品を準備します。主催者との公演内容の打ち合わせを中心となっており、その内容を集約して「音響」や「照明」のスタッフに連絡調整します。公演当日は、舞台の安全管理を行うとともに、舞台袖で進行を見守り、吊り物の上げ下げ、床機構の上げ下げなどの操作を行います。

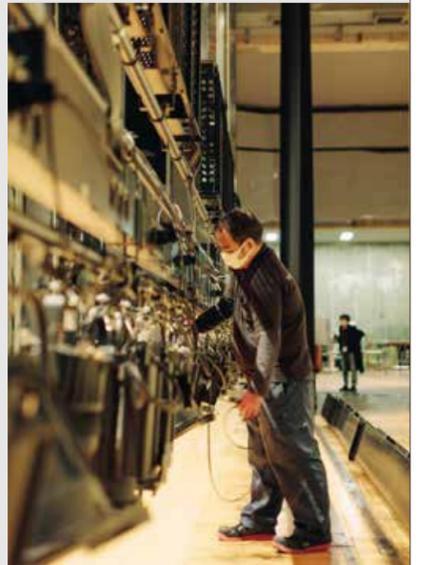
音響は、観客が体感する音楽環境、舞台上の音に関わることをすべてを総合的にデザインします。効果音を出すタイミングや、その音量など、舞台上の重要な演出にも関わることがあります。バンド演奏やミュージカルなど、マイクを数多く使用する演出の場合は、全体のバランスをとりながら、マイク1本1本の細かな調整まで行います。

そして照明は、舞台上に必要な部分に光を当て、明るさや色、点滅などの効果を複雑に組み合わせて舞

台上の演出をします。公演ジャンルによって照明に求められる内容は変わり、舞台演出の中心的な役割を担うこともあります。

現在県劇のコンサートホール、演劇ホールの両ホールは、音響と舞台床機構の改修工事に入っています。令和3年3月には改修工事が終了する予定で、その際には最新の音響システムが導入されます。

舞台技術には、正解というものがなく、その時、その一瞬の感動を生み出すために、試行錯誤が繰り返されています。また、時代によっても、ジャンルによっても、その演出のトレンドは変化しています。ただ時代にも、ジャンルにも左右されない共通する目標はひとつ、公演を見ているお客さんが喜んでくれる舞台を創り出すこと。その一点を見つめながら、舞台技術スタッフは舞台袖で、舞台の後方で、働いています。



上 ベストなタイミングで、ベストな光をコントロールする「照明」。公演内容によって機材を調整している
中 「音響」のスタッフは、観客席の後ろにある音響調整室からお客さんの様子を見守っている
下 公演の進行表をもとに、舞台技術スタッフ全員でミーティングを行う

Highlight

知的・発達障がい児(者)にむけての
劇場体験プログラム
劇場って楽しい!! in 熊本

同じ時間、同じ感動を、同じ空間で共有するのが音楽や舞台鑑賞の醍醐味のひとつ。ただ、その醍醐味を理由があつて一緒に味わえない方たちがいます。劇場には、社会的に弱い立場にある方たちにも鑑賞の機会を提供する社会包摂の考え方が活動の基本にあります。昨年からは、県劇で実施している「劇場って楽しい!!」は、知的・発達障がいがあり、劇場に行くことが困難な方たちに向けたプログラムです。今年は10月18日に演劇ホールで開催しました。

このプログラムは、国際障害者交流センタービッグ・アイ(大阪府)が企画・制作しているもので、県劇で開催するにあたり、通常とは異なる劇場の運営が求められるため、運営スタッフは研修を重ね、公演開催のために必要な対応方法を学びました。2回目となる今回は、昨年の反省点をもとに改善点を話し合

い、それを反映させた開催となりました。その改善点のひとつが、昨年の開催で「開演時間が書いてあるが、時間がわからない」という意見が多かったため、ホール入り口のわかりやすいところにアナログ時計を設置することでした。参加者からいただく声は、開催側が予測していなかったこともあり、とても参考になりました。



上 「劇場って楽しい!」のかけ声とともに、手で大きく丸をつくる。
会場が一体となり、このアクションをすることで場がなごむ
左 大きな音が苦手な方のために準備したイヤーマフ



司会やアーティストが話す言葉は、バックスクリーンに字幕表示

「桃太郎」で締めくくり、1時間の公演は終了しました。最初は緊張感のあつた会場も、途中知っている曲に「あ、赤とんぼ」との声があがるなど、それぞれの楽しみ方で鑑賞する姿が多く見られました。昨年と同様に司会進行を担当した劇団「不思議少年」の森岡光さんは、「司会者はみなさんが最初に出会う人。だから、楽しい演出が大事。元気に楽しんでもらえるように気を配りました」とコメント。これから回を重ねることに、主催者、アーティスト、司会者、そして参加者が一体となって、より良い公演をつくりだしていくイメージを描くことができた一日でした。

Artist comment



[サクソフォン四重奏]
カルテット・スピリタス
左から
ソプラノ・サクソフォン 松原 孝政
テナー・サクソフォン 松井 宏幸
バリトン・サクソフォン 東 涼太
アルト・サクソフォン 波多江 史朗

前のめりで聴いてくれて、
とても嬉しかった!

コロナ禍の中、演奏活動が難しくなっている中での、久しぶりの県劇での演奏でした。障がいを持っている方たちへの演奏は初めての経験で不安も少しありましたが、舞台に出ると最初からみなさんが前のめりで聴いてくれる姿が見られたので、楽しんで演奏できました。演奏の間などに声を出して反応してくれた時もあったので、それはとても嬉しかったですね。以前県劇のアウトリーチ事業に参加していたので、県内の小学校で演奏を行った経験があり、それをもとに曲の選定などの組み立てはできました。また、県劇のスタッフのみなさんとは顔見知りなので、安心して取り組むことができました。



まなびの風景
SCHOOL
SQUARE

菊池市立菊池北小学校
総合的な学習「狂言」

南北朝時代から
菊池市に伝わる
伝承芸能

菊池市の「菊池の松囃子(まつばやし)」は、国指定の無形民俗文化財に指定されている伝承芸能です。能・狂言系統の松囃子が伝承されており、宝暦7年(1757年)の「菊池松囃子起源書」によると、菊池一族第15代当主武光の時に、征西將軍として都から菊池へ入った懐良親王のために松囃子が舞われたのがはじまりとされ、その説によれば南北朝時代から伝わる伝承芸能となります。現在でも年に一度、菊池神社の秋の大祭初日である10月13日に、菊池高校前にある將軍木と呼ばれるムクの大木に向き合うような形で建てられている能舞台で、菊池の松囃子は奉納されています。

能・狂言の系統を汲む菊池の松囃子が伝承される菊池には、江戸時代から和泉流の狂言を演じる人たちがおり、現在では菊池の松囃子の保存会の狂言方が「狂言みのる会」として、独立した活動を行っています。名古屋の和泉流狂言師、野村又三郎氏から指導を受け、週に2回の稽古を行い、県民文化祭や新能などに数多く参加しています。

地元で伝わる芸能に
6年生全員参加で
挑む発表会

菊池市の歴史と文化の中心地にある菊池北小学校は、平成5年(1993年)に開校。この小学校では、伝承文化に対する意識を育む教育の一環として、6年生の総合的な学習の時間に「狂言みのる会」から狂言の指導を受けています。12月に全校生徒の前で行われる発表会に向けて、10月から練習がはじまります。この狂言の発表会は、20年以上も続いており、1年生の時から上級生の発表を見て育つ子どもたちは、菊池市に古くから伝わる伝承芸能について学びます。

授業では、狂言と小舞のグループにわかれ、「狂言みのる会」の代表である田嶋晴雄さんの指導のもと練習が行われます。狂言のひとつの演目を、場面ごとに生徒が交代して演じることで、全員参加で発表会に挑みます。取材に訪れたのは、ちょうど5回目の練習の日。参加していた子どもたちに話を聞いてみると、「セリフの表現がとても難しい」「古閑さん」「狂言は動きが激しくておもしろい」「前田くん」「言葉のイントネーションと動きが普通じゃなくて興味深い」「池邊さん」「中学になっても違う物語をやってみたい」「森上さん」とさまざまな思いが返ってきました。



昨年の発表会の模様。
今年はコロナの影響で参加人数を制限して開催予定



左から6年生の森上幸さん、池邊千有咲さん、古閑純子さん、前田泰輝くん

利用団体紹介
PLAYERS
SQUARE

HULA STUDIO
Na Lei O Hoku
フラスタジオ ナーレイオホク
オハナ(II家族)のような
フラスタジオ

フラスタジオ「ナーレイオホク」は、現在の主宰者である田代美希さんのお母様、市原みね子さんが1999年に立ち上げたフラダンス教室で、昨年20周年を迎えました。スタジオ名は師匠であるトニー・タウベラ氏が命名したもので、星のように連なるレイ、という意味があります。初めて氏がフラスタジオを訪れた時に「みんな仲良くキラキラと輝く星のようだ」と、教室の様子からインスピレーションを受けて出てきた言葉だといいます。「教室のみんな、とても仲が良く、何かあったらみんなドゥッと集まってくれたりして。生徒さんだけでなくそのご家族も、私たちのフラの活動を応援してくれる人ばかりで、教室そのものがオハナ(II家族)です」との田代さんの言葉にあるように、20年のスタジオの歴史の中

に、その雰囲気は脈々と受け継がれているようです。昨年県劇で開催された20周年の発表会では、当日の受け付けを生徒さんの家族が受け持ち、その手際の良さに劇場スタッフが驚いたという逸話もあるほど。

現在の生徒数は、約120人。下は3歳から上は86歳まで、幅広い年齢の方がいます。中には設立当初から通っている方もいるとか。「フラの動きは手と足がバラバラ。それぞれの曲の意味を理解し、それを表情や動きで表現するものなので、ずっと続けている生徒さんはいつもシャットしていますね」。田代さん自身、ダンサーとして仲間と踊る喜びや、指導者として生徒さんの成長を実感できる喜びを、フラを通して得られているといいます。

スタジオではコンペティションへの挑戦を行っており、田代さんが主宰者になる直前に挑戦した2014年の「モク・オ・ケアヴェ」の日本大会では、ソロ部門で優勝。その年のハワイ大会への出場を果たしました。「コロナ禍で教室を開くことができない期間があり、初心に戻って考えました。新しい人たちが成長できるように、これからもコンペに出たり、挑戦をしていきたい」と、21年目の抱負を語ってくれました。



初心者から経験者、年齢などに合わせたクラスでのレッスンがあります。教室は熊本市のスタジオを中心に、県内各地で開催されています。

フラスタジオ ナーレイオホク ホームページ
<https://naleiohoku.com>

